

科目名	地域フィールドスタディ Business Field Research		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・4 限	春・月・5 限	-	-
担当教員名	一守 靖	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>フィールドスタディとは、教室から外（フィールド）に出て実際のビジネスや市場の現場を訪れ、自分の目や心を使ってそこで活動する人々や市場の状況を観察することによって、机上の知識だけでは学び取ることのできない事柄を発見・理解する体験学習のことです。</p> <p>本学での研究活動を通して文献研究やアンケート調査を実施する機会があると思いますが、それらから得られた情報を持って現場に出て自分の目で確認すると、実態は異なっていたり、新たな発見があったりすることは珍しくありません。</p> <p>本講義は、3つのパートで構成しています。</p> <p>第1のパートでは、現場に出でて調査を実施する際の基本的な手法を学びます。</p> <p>第2のパートでは、担当教員が示す教材（ビデオや写真など）を基に現場をとらえる「知覚力」を磨きます。</p> <p>第3のパートでは、あらかじめ担当教員が提示する課題をもとに各自がフィールドスタディの実施計画を立案したうえで現場に赴き、実際のフィールドスタディを体験します。</p> <p>本講義は講義名に「地域」という名がついている通り、本学が位置する新潟地域の産業や市場、人の生の姿についての理解を深めよう、という狙いがありますが、県外からオンラインで参加する学生にも配慮した構成にしてあるため、新潟市、あるいは日本国内に居住していない学生でも履修することが可能です。</p> <p><到達目標></p> <p>フィールドスタディは、現場の観察・分析・考察を通して、問題発見力や提案力などを養うことを目的とした学習方法です。文献や統計から得た情報をそのまま鵜呑みにせず、現場での実際の体験を通して分析・考察につなげるという、今後の事業計画立案やプロジェクト推進活動、研究活動に必要なアプローチを、経験を通して習得します。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>フィールドスタディ、というアプローチ自体がアクティブ・ラーニングの学びの1つであるといえます。これに加え、各自の考えを教室で発表し合い、それに対して担当教員や履修者からのフィードバックを得たり、他の履修者の発表に対して質問やアドバイスを行うことによって、お互いに学びあう場を提供します。</p>				

<講義計画>

1回目：<社会調査とフィールドスタディ>

・要点：講義の全体像と進め方を説明したあと、社会調査のプロセスと其中でのフィールドスタディの位置づけを説明します。

2回目：<フィールドスタディの基本ステップ>

・要点：フィールドスタディを実施する前段階のステップである「テーマの選定」から「フィールド調査の企画」まで、ならびにフィールドスタディを実施した後段階のステップである「調査結果の分析」から「全体のまとめ」までのプロセスを概観します。

3回目：<フィールドスタディの基本技法 ①インタビュー調査法>

・要点：フィールドスタディの基本技法である「インタビュー調査法」について説明します。

4回目：<フィールドスタディの基本技法 ②ケーススタディ>

・要点：フィールドスタディの基本技法である「ケーススタディ」について説明します。

5回目：<フィールドスタディの基本技法 ③参与観察と④エスノグラフィー>

・要点：フィールドスタディの基本技法である「参与観察」と「エスノグラフィー」について説明します。

6回目：<フィールドスタディの基本技法 ⑤行動観察法>

・要点：フィールドスタディの基本技法である「行動観察法」について説明します。

7回目：<認知科学と知覚力>

・要点：同じ現象を見ているにもかかわらず見る人によって異なる解釈になる認知のメカニズムについて学びます。

8回目：<観察力・知覚力の強化①>

・要点：「見る」と「観る」の違いを理解したうえで、どのような視点でものを「観る」べきか、そのやり方について学びます。

9回目：<観察力・知覚力の強化②>

・要点：情報量が限定された写真を教材に用いて、フィールドスタディに必要な観察力・知覚力強化に取り組みます。

10回目：<観察力・知覚力の強化③>

・要点：前回の講義で用いた写真よりも情報量が多い絵画を教材に用いて、フィールドスタディに必要な観察力・知覚力強化に取り組みます。

11回目：<観察力・知覚力の強化④>

・要点：前回の講義で用いた絵画よりも情報量が多い動画を用いてフィールドスタディに必要な観察力・知覚力強化に取り組みます。ここでは、「地域」のフィールド理解のために、新潟県の企業である日本精機、コメリ、スノーピーク、アクシアルリテイリングの公開情報を題材として取り上げる予定です。

12回目：<フィールドスタディの計画①>

・要点：担当教員が示すテーマについて各履修者がフィールドスタディ調査企画書（1回目）の作成を行います。

13回目：<フィールドスタディの実施①>

・要点：各履修者が実施したフィールドスタディの内容について報告し、履修者全員でディスカッションを行います。

14 回目：＜フィールドスタディの計画②＞

・要点：担当教員が示すテーマについて各履修者がフィールドスタディ調査企画書（2回目）の作成を行います。

15 回目：＜フィールドスタディの実施②＞

・要点：各履修者が実施したフィールドスタディの内容について報告し、履修者全員でディスカッションを行います。

＜講義の進め方＞

1 回目から 7 回目までは、講義を中心としてフィールドスタディの基本技法を学びます。

8 回目から 11 回目までは、担当教員が用意する画像や動画などをもとに、履修生全員でディスカッションしながらフィールドスタディに必要な観察力・知覚力強化に取り組みます。

12 回目から 15 回目までは、担当教員が指定するテーマに従って実際に各履修生がフィールドスタディの実施計画を立案・実行し、その報告に対して担当教員と履修生、および履修生間でディスカッションしながら現場を見る目を養います。

＜講義計画＞に記載の通りで進めていく予定ですが、履修者の理解の度合い、履修者のフィールドスタディの進捗状況等によって適宜内容を修正する場合があります。

＜事前事後学修内容＞

担当教員が事前学習資料を Teams にアップロードしますので、それを事前に読んで自分の考えを持って講義に参加してください。

＜予習・復習時間＞

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定されます。詳細は毎回の講義時に指示します。

＜教科書及び教材＞

特にありません。

＜参考書＞

【リサーチ全般】

- ・須田敏子（2019）『マネジメント研究への招待 研究方法の種類と選択』中央経済社
- ・田尾雅夫・若林直樹（編）（2001）『組織調査ガイドブック』有斐閣
- ・田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン：経営知識創造の基本技術』白桃書房

【質的研究】

- ・佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社
- ・小池和男（2000）『聞き取りの作法』東洋経済新報社

【エスノグラフィー】

- ・小田博志（2010）『エスノグラフィー入門 <現場>を質的研究する』春秋社

【ケーススタディ】

- ・佐藤善信（編）（2020）『ケーススタディに学ぶケーススタディ』同文館
- ・Yin, R. K.（1994）, Case Study Research, 2nd ed., Sage Publications.（近藤公彦訳（1996）『ケース・スタディの方法』千倉書房）

【認知・知覚】

- ・神田房枝（2020）『知覚力を磨くー絵画を観察するように世界を見る技法』ダイヤモンド社
- ・松波晴人（2011）『ビジネスマンのための「行動観察」入門』講談社
- ・菅俊一（2017）『観察の練習』NUMABOOKS

その他講義時間内外に適宜紹介します

上記書籍は、主に本講義への理解を深めるための自主学習テキストとして位置づけます。

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しません。

期末レポート、ディスカッションへの参加度・貢献度を3:7の比率にて評価します。

期末レポートの詳細は、講義の後半にお知らせします。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

授業内で発表していただいた内容に対してフィードバックを与えます。

<履修条件>

特にありません。

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

月曜日4限と6限。面談の重複を避けるためにメールにてご連絡ください。

<その他>

事前学習として、日ごろから講義で習う認知のしくみやモノの見方を意識しながら物事を観て、感じる訓練をしてください。その際は、佐藤郁夫（2002）『フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社、を参考にしてください。

事後学習としては、講義中に習ったフィールドスタディの基本技法が、自分の仕事や研究にどのように活かすことができるかについて検討してください。